



ニュースレター 明治大学史 No.13



明治大学全国校友鳥取大会記念鼎談（2016年11月13日 とりぎん文化会館梨花ホール）

目次

（巻頭言） 資料センターの役割	明治大学史資料センター所長 山泉 進	2
特集① センターの社会貢献活動		3
I シンポジウム II 講演会		
特集② センター調査報告		7
I 創立者関係 II 人権派弁護士関係 III アジア留学生関係 IV 昭和歌謡史（阿久悠）関係 V 子母澤寛関係 VI 児玉花外関係		
大学史資料センター事業報告		12
大学史資料センター刊行物案内		16
私学の誕生 明治大学の三人の創立者／木村礎研究 戦後歴史学への挑戦／布施辰治研究／三木武夫研究／明治大学小史 人物編／阿久悠・布施辰治（大学史紀要第21号）／阿久悠研究 III（同第22号）／人権派弁護士研究 III・山崎今朝弥研究2（同第23号）／大学史活動 第37集		

(巻頭言) 資料センターの役割

明治大学史資料センター所長
山泉 進

明治大学史資料センターは、2003（平成15）年4月に法人組織である総務部に設置されました。その起源は、1978年に「明治大学百年史」の編纂・刊行のために設置された「歴史資料専門委員会」にありました。その後、1985年に「百年史編纂委員会」と組織改編をはかって、『明治大学百年史』全4巻（資料編2巻・通史編2巻）を、1986年から1994年までの8年間をかけて出版しました。「歴史資料専門委員会」から数えれば40年、『明治大学百年史』の完結からでも23年が経過したことになります。1881（明治14）年に創立された明治法律学校からの歴史である136年間を考えれば、これだけの年月の経過に格別驚くことはありませんが、それでも明治大学史資料センターの活動の歴史は、創立以来の大学史のなかに確実に埋め込まれています。

もちろん、大学史資料センターの役割は、明治大学の創立から現在にいたるまでの明治大学関係資料の収集、整理保存、公開を主たる目的としているのですが、ただそのことだけを任務としているわけではありません。むしろその基本的活動のもとに、それらの資料を大学としての活動のもとに、どのように活かしていくかということが重要であります。もちろん、大学の使命は、教育と研究、それに社会連携ということにあります。つまり、大学史資料センターは、大学における教育研究活動とどのように連携し、どのようにしてその活動成果を社会へと還元していくのか、そのことが重要になってきます。

教育活動の中心は、学部間共通総合講座「明治大学の歴史」の4キャンパスでの開設にあります。もちろん単位として認定されている講義です。この講座は、1997年度に和泉キャンパスで開講した「日本近代史と明治大学」から始まっています。開講3年目には駿河台と生田の3キャンパスに開設されるようになりました。開設にあたって当時のセン

ター所長であった渡辺隆喜・文学部教授が書いた開講の趣旨には、「明治大学の歴史を広く近代史のなかに位置づけ、大学に学ぶ者一人ひとりの存在意義を、社会とのかかわりで考えることにある。」とあります。今でこそ、伝統ある私立大学では「自校史」講座として大学史の講義がおこなわれるようになりましたが、間違いなく明治大学がその先陣をきりました。現在では中野キャンパスを含む4キャンパスで開講され、また『明治大学小史』や『私学の誕生』を刊行して教科書としての役割をもたせています。

研究活動としては、私が所長に就任して以来、研究部会を整備し、共同調査・研究活動をセンターの重要な任務として位置付けました。同時に『大学史紀要』に編集委員会を設置し、論文については査読のシステムを導入し、また年2回の刊行として、研究紀要としての充実をはかってきました。またその成果は、日本経済評論社からの「研究叢書」の刊行にも繋がっています。また、社会連携の事業については、本『ニュースレター』に掲載されている事業活動をみていただければわかりますが、全国校友大会、ホームカミングデー、リバティアカデミー、その他各地域での講演会などと多岐にわたっています。

将来的には、私は、明治大学の使命として、教育、研究、社会連携にくわえて、文化継承を掲げることが必要であると考えています。現在の博物館、平和教育登戸研究所資料館、阿久悠記念館、これから設置されるであろうマンガミュージアム、それに大学史資料センターを加えた「文化継承」についての部署を新設して、明治大学の総合的な文化戦略を打ち立てる必要があらうかと思います。現在の土屋学長のもとで進められている「人権と平和」としての大学イメージを補強するためにも、明治大学が培ってきた「文化」を前面に押し出すことが明治大学の大切な課題だと思っています。

特集① センターの社会貢献活動

大学史資料センターでは、これまで蓄積した知見と資料を研究資源として、学内各セクションや学外機関と連携しながら大学のステークホルダーや社会各層に向けて講演会やシンポジウムなど、社会貢献に資する活動を行っています。今回は2015年度・2016年度に実施した活動の一端をご紹介します。

I シンポジウム

○ アジアの人権とコモンズ——布施辰治！甦れ。

〈2015年6月27日（土） グローバルフロント1階多目的室〉

大学史資料センターが呼びかけて、明治大学法学部、同大学院法学研究科、同法科大学院と共催で実施したシンポジウムおよび講演会です。シンポおよび講演会の記録は大学史紀要第21号（2016年3月刊）に掲載しています。

本シンポで取り上げた布施辰治（1880～1953）は、センター内に設置した研究部会の一つである人権派弁護士研究会（研究代表 山泉進法学部教授〔センター所長〕・村上一博同教授〔センター運営委員〕）が研究の対象としている明治大学出身の人権派弁護士です。最初に山泉センター所長の進行で、以下の報告がありました。大石進氏（日本評論社会長・布施辰治貴孫）「布施辰治評価の現状」、池田博穂氏（映画監督）「映画『弁護士・布施辰治』」、中村正也・飯澤文夫両大学史資料センター研究調査員「布施辰治資料（石巻文化センター所蔵）の現状」です。次に、今回の総合タイトルになっているシンポジウム「アジアの人権とコモンズ」に移りました。布施は大正中期から昭和期にかけて岩手県における入会権（一定地域の住民が一定の山野あるいは原野等に共同に入り雑木、石材等を収益する民法上の権利）の問題に関わり、村民の立場から弁護活動を行ってきました。こうした布施の弁護活動を、「人権」と近年注目されている「コモンズ」（みんなのもの）の視点から検証を試みるものです。シンポジウムでは早坂啓造氏（岩手大学名誉教授）「布施辰治と岩手の入会訴訟」、李圭洙氏（高麗大学韓国史研究所教授）「植民地朝鮮からみた布施辰治」、村上委員「布施辰治の私的所有権理解について」の報告の後、活発な討議をおこないました。

シンポの掉尾では森正氏（名古屋市立大学名誉教授）より「人道の弁護士＝社会運動家・布施辰治の生涯」と題した記念講演を頂きました。森氏は大冊の『評伝 布施辰治 人道の弁護士・社会運動家』（日本評論社）を上梓しています。森氏は「人道」をキーワードとして布施の生涯を辿りました。

また、シンポジウムと関連して明治大学中央図書館1階ギャラリーにおいて「弁護士・社会運動家 布施辰治展」（6月27日から7月12日まで）を開催しました。

なお、本企画への協賛を以下の団体から頂きました。高麗博物館、ドキュメンタリー映画「弁護士・布施辰治」制作委員会、日本経済評論社、日本評論社、不二出版、明治大学図書館、ゆまに書房（50音順）。ご協力頂いた関係各位に厚く御礼申し上げます。



Ⅱ 講演会

○ 創立者講演会〈鳥取敬愛高校 2015年9月12日（土）〉

センターでは明治大学創立者の故郷と連携し講演会などのイベントへの協力を行っています。初代校長岸本辰雄（1851-1912）の生誕地である鳥取県において、調査と創立者3人に関する講演会を実施しました。「鳥取県民の日」にあたるこの日実施された講演会は、市内中心部にある鳥取敬愛高校体育館において、同校生徒を対象にしたものです。

講演では、山泉所長が「明治大学の3人の創立者」、村上委員が「鳥取出身の明治大学創立者 岸本辰雄」、野尻泰弘文学部専任講師（センター運営委員）が「鯖江と矢代操」について、それぞれわかりやすく創立者と明治大学の歩みを紹介しました。



○ 明治大学創立者論—正義の鐘を打ちて鳴らさむ—空いている時間にどうぞ！ ☆明治大学史資料センター総力1日だけ講座〈ホームカミングデー特別講演会 リバティタワー6階1063教室 2015年10月18日（日）〉

毎年10月に開催する明治大学ホームカミングデーの場において、社会連携事務室主催の公開講座の一環として、創立者・関係者や大学の歴史を紹介する講演会を実施しています。2015年度の講演会においては、創立者をテーマとして、その生い立ち、法学者としての成長、明治大学の創立事情、業績などについて紹介しました。担当者と講演内容は次の通りです。村上委員「明治法律学校の思想」、阿部裕樹センター室員「岸本辰雄論」、山泉所長「宮城浩蔵論」、野尻委員「矢代操論」、吉田悦志国際日本学部教授（センター副所長【当時】・現センター運営委員）「明法寮の5人組」です。母校に戻ってきた校友とリバティアカデミー会員200名あまりが、自らの通った大学の創立者たちの紹介に熱心に聞き入っていました。

○ 明治大学文化人論〈ホームカミングデー特別講演会 リバティタワー1階 1011教室 2016年10月23日（日）〉

2016年度のホームカミングデー公開講演会は、明治大学が輩出した著名人たちを特集しました。担当者と講演内容は次の通りです（各50分）。

高田幸男文学部教授（センター副所長）「アジア留学生と明大文化」
 富澤成實政治経済学部教授（同運営委員）阿久悠著『日記力』を読む」
 村上委員「道を切り拓いた明大WOMEN」
 吉田委員「明治大学文人物語」
 山泉所長「私学の誕生—明治大学の3人の創立者」です。

前年に続き、200名あまりの参加者があり、活気のある講演会となりました。センターではホームカミングデーにおいて、今後も継続的に講演会等のイベントを実施することを考えています。

○ 「厚田ふるさと平和・文学賞」設立記念シンポジウム〈石狩市厚田支所 2016年8月29日（月）〉

石狩市厚田ふるさと平和・文学賞実行委員会による「厚田ふるさと平和・文学賞」（会長 佐藤勝彦 石狩市厚田区地域協議会会長、札幌大学名誉教授）の設立記念シンポジウムに参加し、吉田委員が講演を行いました。同市厚田地区は、明治大学卒業生で『新選組始末記』『勝海舟』などで知られる歴史小説家・子母澤寛（1892-1968）の郷里です。

2016年、同じく厚田出身である戸田城聖の名を冠した「戸田城聖平和賞」とともに、「子母澤寛文学賞」（短編小説部門）「愛猿記賞」（エッセイ部門。子母澤の同名エッセイに由来）が創設され、子母澤に関わる二つの文学賞について、センターが後援をしています（後援機関は他に石狩市・石狩市教育委員会・北海道立文学館・北海高等学校・石狩ユネスコ協会・NPO法人ひとまちつなぎ石狩・北海道新聞社・えりすいしかりネットテレビ・（株）あい風風車基金）。

2011年から子母澤の調査のため厚田を訪問し、子母澤寛文学賞の選考委員もつとめている吉田委員が、同賞設立記念シンポジウムにおいて「石狩湾岸の新選組物語―北の国に鶴がいた―」と題した基調講演を行いました。その後、「厚田が生んだ作家・子母澤寛の魅力」をテーマとしたパネルディスカッションに移りました。佐藤勝彦会長の司会により、パネリストとして吉田委員のほか、大黒利勝氏（子母澤文学を読む会会長）、森厚氏（農民文学賞作家）が登壇し、子母澤文学の本質や、子母澤に関する調査・顕彰への地域的な取組みについて活発な討議が交わされました。なお、設立シンポジウムには、山泉所長、村上委員、阿部裕樹、村松玄太両センター室員も参加し、イベント終了後、同支所内にて、「厚田ふるさと平和・文学賞」関係者、石狩市長・田岡克介氏、石狩市議会議員・伊藤一治氏、石狩市教育委員会生涯学習部文化財課課長・工藤義衛氏、石狩市市民図書館副館長・清水千晴氏と懇談し、文学賞の後援などセンターとして今後も協力することを約しました。また「厚田ふるさと・平和文学賞」委員会から、センターに關係資料の受贈を受けました。その後2日に渡って道内で各種調査を行いました（調査内容については本誌10頁参照）。



○ 第52回 明治大学全国校友鳥取大会記念講演／鼎談・岸本辰雄先生パネル展示〈とりぎん文化会館梨花ホール〈パネル展は同館1階展示室〉 2016年11月13日（日）〉

明治大学は卒業生や一定の要件を満たした教職員、関係者等を「校友」と呼称しています。明治大学創立以来の校友はすでに50数万を数え、毎年全国から校友が集って校友全国大会を実施しています。

2016年、鳥取県ではじめての校友全国大会が開催されました。鳥取県は創立者・明治法律学校初代校長岸本辰雄（1851-1912）の生誕地でもあります。校友会鳥取県支部（三保文嗣支部長）と鳥取大会実行委員会（石谷勇雄委員長）では「来なんせ鳥取！創立者岸本辰雄先生のふるさとへ」をテーマに、各種式典、マンドリン倶楽部OB演奏会、懇親会等様々な行事と並んで、岸本を主題とした記念講演会と鼎談を企画し、これにセンターが協力しました。

記念式典に続いて行われた「鳥取出身・明治大学創立者 岸本辰雄先生を語る」と題した企画において、山泉所長が冒頭の挨拶として大学の歴史や情報を収集・保存するセンターの役割と活動につい

て紹介しました。

続いて村上委員が鳥取から上京し、貢進生として学び、フランス留学に至る時期を中心に、基調講演を行いました。講演のなかでは、大学南校から司法省法学校に転じてボワソナードについて知識を深め、留学したフランス時代の岸本について焦点が当てられ、西園寺公望や司法省法学校時代の仲間との交流や、パリ大学での過酷な勉学の模様について紹介がありました。

最後に、山泉所長、村上委員に校友会鳥取県支部の伊藤康晴氏を加えた鼎談を行いました。伊藤氏は、鳥取の歴史と岸本の鳥取時代に造詣が深い歴史研究者です。鼎談の冒頭で伊藤氏は、池田家32万石の城下町であった鳥取の江戸時代から近代までの歴史を紹介され、続いて伊藤氏の進行で鼎談を開始しました。

鼎談では、鳥取藩の土木技術の仕事に従事していた岸本の父・平次郎のことや、鳥取で幼少期を過ごした岸本が貢進生となるまでの歩みを振り返りながら、長じて法曹養成の制度と、それを受けた法律学校の誕生に、関係者がどのように関与したか、また岸本の法學研究の学問的な意義や、さらにはその人間的な魅力など、岸本に関する多角的な側面が、800名あまりの出席者の前で披露され、講演会・鼎談は盛況を以て終えることができました。

なお当日の式典参加者には、冊子『明治大学創立者 岸本辰雄～明治を生きた鳥取県士族の生涯』（明治大学校友会鳥取県支部発行）が配布されました。同冊子には、村上委員、阿部センター室員が寄稿しています。

また、関連企画として、大会と同時開催で、同館1階展示室にて「岸本辰雄先生パネル展～明治大学を創った男 鳥取出身士族の挑戦～」と題したパネル展示を校友会鳥取県支部とセンターの共催で実施しました。平井伸治鳥取県知事も展示に見学に訪れるなど多数の来展者を迎えることができました。



○ 明治大学今昔物語（講演会）〈明治大学父母交流会 リバティタワー1012・1021教室 2016年11月27日（日）〉

明治大学には、父母会があります。1972年に岡山県で誕生して以降、全国各地で父母会が誕生し、現在では57地区に父母会があります。全国の各地区父母会の連合組織として設立された連合父母会は、大学と父母を結ぶ架け橋としての役割を持ち、奨学金の給付や課外活動の支援、卒業記念品の贈呈など多岐にわたる事業を行っています。

その事業の一環として、例年父母会では全国各地の父母を結ぶ父母交流会を行っています。今回第12回となる交流会において、父母に向けて標記の講演会を協力して開催する運びとなりました。

講演は「昔」と「今」の部に分かれ、「昔」の部で3人の創立者たちと明治大学の誕生を、「今」の部で卒業生の作詞家・作家阿久悠（1937-2007）を紹介しました。講演内容は以下の通りです。

明治大学の創立者や、著名な卒業生について、父母に向けて紹介する機会はなかなかありません。今後、父母会と協力しながらより親しみやすいスタイルにしていこうと考えています。

- 「昔」の部
 - 山泉所長 明治大学の誕生
 - 村上委員 明治大学の創立者たち
- 「今」の部
 - 吉田委員 阿久悠 一詞と女性一
 - 富澤委員 阿久悠著『日記力』を読む
 - 村松センター室員 阿久悠記念館の愉しみ方

特集② センター調査報告

大学史資料センターは明治大学のアーカイブズとして、大学が歩んできた歴史に関する様々な調査・資料収集活動を行い、蓄積した資料を整理して基礎資源として各種問い合わせへの対応、成果物等の刊行、展示会等を開催しています。本号では2015・2016年度に実施した調査をご紹介します。

I 創業者関係

○ 創業者岸本辰雄関係聞き取り調査〈2015年9月11日（金）～13日（日） 鳥取県鳥取市〉

2015・2016年と鳥取県で実施した岸本辰雄に関する講演会については、本誌特集①「センターの社会貢献活動」の項目で紹介した通りですが、鳥取で岸本辰雄をめぐる調査も実施しています。創業者研究会（代表 村上委員）では、2015年にコンパクトな創業者たちの伝記である『私学の誕生』（三省堂／創英社）を編集・刊行しましたが、創業者に関する研究をより深化させるべく、鳥取の地域史も含めた研究を推進しています。2015年には9月12日の鳥取敬愛高校での講演会前後である11・13日にかけて、鳥取県立博物館および鳥取市歴史博物館を訪問し、収藏品や周辺故地の調査を行いました。

今後創業者研究会を中心として、宮城浩蔵、矢代操の調査も促進していきたいと考えています。

（山泉進・村上一博・野尻泰弘・阿部裕樹 ※以上調査者）



岸本辰雄屋敷跡（鳥取市上町）にて（右端は横山展宏鳥取市歴史博物館学芸員）

II 人権派弁護士関係

○ 布施辰治関係資料調査〈2015年8月3日（月）～4日（火） コモンズ・小繋文庫についての調査（岩手大学図書館・岩手県立図書館）〉

第2期人権派弁護士研究会（研究代表 山泉所長・村上委員）では布施辰治に関する調査を継続して実施しています。

今回は布施が弁護活動に携わった小繋事件についての資料を所蔵している岩手大学図書館を訪問し、同資料の収集・整理を行った早坂啓造同大名誉教授から、「コモンズ」についてレクチャーを受けました。早坂名誉教授には本誌3頁で紹介したシンポジウムにて報告を頂いています。

翌日は岩手県立図書館にて、同館所蔵資料の概要（郷土資料・震災関係資料等）についての説明を、同館阿部ひろみ氏より受けたのち、各自資料・文献調査を実施しました。

（山泉進・村上一博・長沼秀明・中村正也・飯澤文夫・阿部裕樹）



岩手大学図書館にて（前列左端が早坂啓造岩手大学名誉教授）

○ 鵜澤総明関係 〈2016年4月〜〉

明治大学で長く教鞭をとり、のち総長・理事長、戦前の明治中学校校長を務めた鵜澤総明（1872—1955）は、弁護士として「足尾鉍毒事件」「日比谷焼打事件」「大逆事件」「血盟団事件」などの弁護活動にあたり、戦後も極東国際軍事裁判の日本側弁護団長に就任するなど、日本の法曹史上にも大きな足跡を残しました。センターでは鵜澤の研究を深めていくことを検討しており、現在予備的な調査を進めています。

今後関係者等とも連携をはかりながら、研究を推進していきます。

（山泉進・村上一博・中村正也・飯澤文夫・阿部裕樹）



Ⅲ アジア留学生関係

アジア留学生研究会（研究代表 高田幸男センター副所長）は、明治大学が受け入れた多数のアジア留学生のを中心に研究を進めています。2012年度から2014年度まで、人文科学研究所の総合研究「アジアの政治社会の民主化と明治大学留学経験についての総合的研究」の採択を受けて調査を進めました。現在その成果をまとめるべく鋭意研究会を開催しています。

また、2015年度から大学院において研究会の成果を活用した科目を設置しています。2016年度は秋学期に中野キャンパスで学際系総合研究C「日本「留学経験」についての総合的研究」（コーディネーター 土屋光芳政治経済学部教授〔センター研究調査員〕）を開講しています。

（高田幸男・山泉進・村上一博・秋谷紀男・土屋光芳・鳥居高・李英美・三田剛史・山下達也・鈴木将久・長沼秀明・阿部裕樹）

Ⅳ 昭和歌謡史（阿久悠）関係

センターではかねてから作詞家・作家阿久悠について継続的に調査を進め、センター内に昭和歌謡史研究会（代表 吉田委員）を設置し、阿久悠とその残した昭和歌謡についての研究を進めています。とりわけ、阿久の遺した27年にわたる日記の研究を促進させるべく、分科会として2014年末から「日記研究会」を置き、その膨大な日記の研究を進めています。2016年度からは科学研究費助成事業基盤研究（C）に採択されました（採択課題「阿久悠の時代観察と創作活動の実態分析—「阿久悠日記」と関係者の証言を中心に」（課題番号16K02337））。

研究会のメンバーは、吉田委員、富澤委員と、阿久の令息深田太郎氏、長く阿久と仕事を共にした作家の三田完氏、『書下ろし歌謡曲』（岩波新書）など、阿久の作品を手がけた元岩波書店の井上一夫氏、村松センター室員が参加しています。2016年7月には日記全体の通観を了えました。研究会の様子は同月放送された「ニュースウォッチ9」等でも紹介されました。

日記研究と関連して、阿久の人物像を知るために、多くの方々へのインタビューを行うことも続けています。2015年1月の小林亜星氏（作曲家）へのインタビューにつづいて、同年3月には齋藤柳光氏（元日刊スポーツ・校友会副会長）、6月には堀威夫氏（株式会社ホリプロファウンダー最高顧問）、7月には関園子氏（元アニメーター・写真家）にお話を伺いました。インタビューの様子は、大学史紀要第21号（2016年3月刊行）に掲載しています。また大学史紀要第22号では特集題を「阿久悠研究 Ⅲ」と、メンバーの研究成果を掲載しました。今後日記研究会では関係者インタビュー等を継続するとともに、日記の研究をより深めていくことも検討しています。

（吉田悦志・富澤成實・村松玄太）

V 子母澤寛関係

○ 子母澤寛関係資料調査〈2015年8月26日（水）～28日（金）北海道石狩市、札幌市〉

吉田委員を中心として作家・子母澤寛について調査を進めていることは本誌特集①でご紹介しています。この調査では、最初に開拓の村（札幌市厚別区、歴史的建造物等を公開）を見学しました。ここには子母澤が通学した旧北海中学校校舎が移築されています。同日石狩市内にて中根誠治氏（厚田資料室サポートの会）、西田正人氏（石狩市厚田支所・支所長）、高田靖仁氏（同・地域振興課課長）、佐藤勝彦氏（厚田区地域協議会会長）、大黒利勝氏（厚田資料室サポートの会・会長）と子母澤に関する情報交換を行いました。中根氏からは関係資料を受贈しました。



旧北海中学校校舎

翌27日は子母澤の祖父の周辺に関連する、月形樺戸博物館、三笠市立博物館、および永倉新八墓（札幌市清田区）を巡見しました。

月形樺戸博物館には、旧樺戸集治監（1881～1919）関係の資料が多数展示されています。同監では、旧新選（撰）組永倉新八（のち改姓・改名により、杉村義衛となる）が剣術師範（在任1882～1886）を務めました。同監を舞台とした山田風太郎『地の果ての獄』では、厚田からの来訪者として梅谷十次郎（子母澤の祖父）が登場し、映画「北の螢」（五社英雄監督。阿久悠が主題歌の作詞を行う）の舞台となるなど、明治大学関係者とのゆかりのある施設です。月形町産業課商工観光係長・野本和宏氏の案内により、『新撰組永倉新八』（永倉の13回忌に際して編まれた永倉子息杉村義太郎による私家版）等の一部展示資料を実見しました。もう一つ訪れた三笠市立博物館には旧空知集治監（1882～1901）関係の資料が展示されています。樺戸・空知集治監には、自由民権運動・秩父事件・加波山事件等で有罪となった政治・思想犯、および凶悪犯が収監され、過酷な条件下で炭鉱労働（幌内炭鉱）や道路工事（現在の国道12号線、道道275号線・通称樺戸道路）に従事させられていました。最終日の28日は、高倉健主演映画「駅—STATION」の舞台となった増毛町を巡見しました。



永倉新八（後年杉村姓に改姓）墓

（吉田悦志・阿部裕樹）

○ 子母澤寛関係資料調査（三岸好太郎）〈2016年4月22日（金） 三岸アトリエ（東京都中野区）〉

夭折した洋画家の三岸好太郎（1903-1934）は子母澤寛の異父弟です。三岸の妻・節子（1905-1999）も洋画家として大きな活躍をしました。このたび三岸が亡くなる前に自らのアトリエとしてデザイン・建築した「三岸アトリエ」（山脇巖設計 1934年築。2014年に登録有形文化財に指定）にお邪魔し、三岸令嬢の向坂陽子氏、貴孫の山本愛子氏に、三岸好太郎の話、三岸と子母澤の母である三岸イシの話、伯父である子母澤の話を中心に伺いました。

三岸と子母澤の交流や、子供好きで優しくだったという子母澤の印象など、興味深いお話を種々伺うことができました。

（吉田悦志・阿部裕樹）

○ 子母澤寛関係資料調査（吉葉山）〈2016年6月3日（金） 吉葉山ご遺族〉

大相撲力士で第43代横綱の吉葉山（本名池田）潤之輔（1920-1977）は、石狩市厚田の出身で、子母澤と同郷です。また吉葉山令夫人のご母堂にあたる塚本ミサは、かつて梅谷家に養女として迎えられていて、子母澤の義きょうだいにあたります。

この調査では、吉葉山と令夫人のご遺族にあたる方々と、ミサのこと、吉葉山と厚田、吉葉山と子母澤との交流など、その深い縁について伺いました。

（吉田悦志・阿部裕樹）

○ 子母澤寛関係資料調査〈2016年6月17日（金） 子母澤寛貴孫〉

子母澤のご長女のご長男にあたる貴孫の方にお話を伺いました。同氏のご自身でも子母澤や家族の足跡に深い関心を寄せ、調査や資料収集を重ねてられました。

2017年には同氏が所蔵されている子母澤の遺品や書籍計145点を、「厚田ふるさと平和・文学賞実行委員会」に寄贈されています。現在これらの資料は石狩市民図書館の特別書庫に保管されています。

この聞き取りでは、厚田時代の子母澤や梅谷家のルーツに関わるお話や、食事に格別のこだわりを持ち、食に関する作品も残している子母澤の食にまつわるお話、そしてしばしば映画などの原作となる子母澤作品について、など様々な貴重なお話を伺うことができました。

（吉田悦志・阿部裕樹）

○ 子母澤寛等関係資料調査〈2016年8月29日（月）～31日（水）北海道石狩市厚田〉

石狩市厚田ふるさと平和・文学賞実行委員会による「厚田ふるさと平和・文学賞」（会長 佐藤勝彦石狩市厚田区地域協議会会長、札幌大学名誉教授）の設立記念シンポジウムに参加したことは本誌特集①で触れましたが、この際に、中根誠治氏（「厚田ふるさと平和・文学賞」実行委員・北海道創価学会）のご案内により 子母澤の生家跡周辺や、厚田地区に建設中の、展示施設が併設予定の道の駅建設現場等の巡見を行いました。

翌30日は午前中は厚田区内の巡見を実施しました。中根氏と、本学校友の三谷亮介氏（創価学会北海道事務局）のご案内で予定していた海上からの故地視察は台風接近に伴う強風のため中止しましたが、厚田区発祥の地や図書館などを調査しました。

午後は、月形町に移動し、昨年に続き同町月形樺戸博物館を調査・見学しました。同館の所蔵する『北海回覧記』・『巡回日誌』・『典獄上川郡巡回日誌』・『北海道移住民意見書第二』や書簡などは、近代監獄（1908年制定）や監獄法（1908年制定）など近代法制史の研究上でも、学界未発表の貴重な資料であるため、今後の調査分析について同館の野本和宏氏と協議を行いました。

最終日となる30日は班に分かれて調査を行いました。吉田委員・阿部室員は、子母澤寛関係資料調査として北海道立文学館を訪問し、同館所蔵の子母澤寛原稿や書簡を実見、撮影しました。また、子母澤寛の異父弟・三岸好太郎の作品を所蔵・展示する北海道立三岸好太郎美術館を訪問し、同館学芸員の福地大輔氏にお話をうかがった後、展示準備中の「三岸交響楽」展の一部を、特別に観覧させていただきました。山泉所長・村上委員・村松室員は、センターの類縁機関である北海道大学大学文書館を訪問し、山泉所長は北海道大学内の史跡等を巡見、村上委員は、札幌市資料館の資料調査を実施、村松室員は、北海道立文書館の資料調査を実施し、特に明治時代の北海道における法学普及の実態に関する資料を調査しました。

（吉田悦志・山泉進・村上一博・村松玄太・阿部裕樹）

Ⅵ 児玉花外関係

○ 児玉花外関係資料調査（飯塚鈴児関係）〈2016年4月5日（金） 画廊 花の画廊・飯塚鈴児資料室〉

明治大学校歌の作詞者・児玉花外（1874-1943）は、社会主義詩人・熱血詩人として知られます。花外と生前交流のあった海洋画家・飯塚鈴児（1904-2004）がその交流などを画屏風で残しているとのことで、情報を頂いた石井裕司氏のご案内で、東大和市にある花の画廊・飯塚鈴児資料室にお伺いしました。

同画廊は高見清三郎氏と令夫人のみさ子氏が運営しており、ギャラリーと飯塚作品の管理を行っています。飯塚は戦前、挿絵画家として活躍し『日本少年』『少年世界』『幼年倶楽部』『少年倶楽部』などへ寄稿をしていました。戦後は海洋画家として活動しました。絵画の代表作に「沖縄に南進する大和」（遊就館展示）等があります。没後に評伝『怪物画人 飯塚鈴児』が刊行されています。

花外は晩年少年誌に数多くの詩を寄稿しており、その時期に飯塚と知遇を得たと考えられます。

花の画廊で所蔵する、飯塚が88歳の時に制作を開始した画屏風「酒九十九歌」は酒にまつわる自作の短歌や寸言に絵を添えたものです。この屏風の劈頭に花外との交流と、花外としばしば訪れた「駒形どぜう」が描かれています。飯塚夫妻は孤独の身であった花外を板橋養老院で看取ったといえます。

同資料室は所蔵の飯塚作品の大半を国立昭和館に寄贈し、さらに一部を下田市の玉泉寺（日本初の米国総領事館が開設された場所）に寄贈する準備を進めているところで、屏風は玉泉寺に寄贈する直前に見せていただいたものです。その後、高見清三郎・みさ子夫妻に、生前の飯塚の豪放な人柄や花外との交流について種々お話を伺いました。その際、飯塚鈴児『えっちゃん・ほも』南北書園、1948年、飯塚肖像（自筆サイン付）写真、「和田村歴史散歩 岸浪敬司顕徳碑」（東京和田会ニュース 1989年6月30日）、「狸念仏」（コピー）、作品ポストカードなどのご寄贈も頂きました。

お世話になった高見清三郎氏は、調査に伺った後の9月25日にご逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。

（村松玄太）

明治大学史に関する資料の情報提供のお願い

どんなことでも結構ですので、明治大学の歴史や卒業生に関する資料や情報の提供をお待ちしております。よろしくお願いいたします。

電話 03-3296-4329・4085（担当 村松・阿部）

大学史資料センター事業報告(2015・2016年度)

1 資料の調査・収集・公開

各部署で所蔵する、保存年限は終了したものの歴史的価値を有する学内文書の調査・移管を随時実施しました。部署により文書の保存状態はまちまちであり、これらの文書には劣化が進んでいるものも数多くあります。従前から取り組んでいる関係部署との連携をより深め、劣化の著しい文書類については速やかに移管を進めて整理・保存のための措置を講じ、大学アーカイヴズとしての機能強化を図っています

創業者・著名校友(昭和歌謡関係者・財界人関係者)・アジア留学生等に関する資料の調査・収集についても継続して推進しています(詳細は本誌特集②「センター調査報告」参照)。

蓄積した資料や情報は校史を明らかにする材料としてばかりではなく、研究資源として学内外に幅広く公開します。2015・2016年度とも約200件の照会に対応しました。

2 編集・刊行

調査・収集の成果を学内外に広く公開するため、以下の刊行物を編集・刊行しました。

- ① 報告集『大学史活動』第37号(2016年3月刊行)
- ② 論文集『大学史紀要 第21号 特集 阿久悠・布施辰治』(2016年3月発行)
 論文集『 同 第22号 阿久悠研究 Ⅲ』(2017年2月発行)
 論文集『 同 第23号 人権派弁護士研究Ⅲ 山崎今朝弥研究2』(2017年3月発行)
- ③ 広報誌『ニュースレター 明治大学史』第13号(本誌)
- ④ 『M-style』連載「大学史の散歩道」執筆
 山泉 進「大学史の散歩道143 三人の創立者と明治大学の誕生」M-STYLE vol.73
 2015年 4月
 村上一博「同144 南台科技大学を創設した《辛文炳》」vol.74 2015年 5月
 阿部裕樹「同145 明治法律学校開校当初の卒業生とその進路」 vol.75 2015年 6月
 高田幸男「同146 賈士毅—中国近代税制・財政のエキスパート」vol.76 2015年 7月
 村松玄太「同147 明治大学の「校友山脈」」 vol.77 2015年 9月
 秋谷紀男「同148 鈴木商店と藤田謙一」 vol.78 2015年10月
 吉田悦志「同149 近代日本1881の光と影」 vol.79 2015年11月
 山泉 進「同150 総長・志田鉦太郎「学園は兵営にあらず」vol.80 2016年 1月
 村上一博「同151 東洋のオルトラン 宮城浩蔵論文選集」vol.81 2016年 4月
 山泉 進「同152 明治大学史を学ぶことの意義」vol.82 2016年 5月
- ⑤ 広報誌『明治』連載「目で見える明治大学の歩み」執筆(年4回)
 村松玄太「目で見える明治大学の歩み60 春の大学点描」『明治』
 第66号 2015年 4月
 阿部裕樹「同61 和泉キャンパスの歴史」第67号 2015年 7月
 村松玄太「同62 音楽サークルの歴史」 第68号 2015年10月
 阿部裕樹「同63 1934(昭和9)年女子部卒業アルバムを見る」
 第69号 2016年 1月
 阿部裕樹「同64 スポーツ活動のはじまり」第71号 2016年 7月
 村松玄太「同65 研究の歴史」第72号 2016年10月
 阿部裕樹「同66 明治大学と「鳥取」の絆」第73号 2017年 1月

3 教育

駿河台・和泉・生田・中野キャンパスにおいて「学部間共通総合講座 明治大学の歴史」を開講しています。明治大学で学ぶ学生に、自分の学んでいる大学がどのような理念で設置され現在に至っているのか、そして大学の特色がどこにあるのかを知らせ、大学をより身近に感じ、大学生生活を豊かにすることを目的としています。

4 展示

大学の理念や歩みを幅広い層にわかりやすく伝えていくため、センターで収集・所蔵している資料の展示を実施しました。

- ① 大学史展示室（常設展示 駿河台キャンパスアカデミーコモン地下1階）
- ② 阿久悠記念館（常設展示 同）
- ③ 大学小史展示（企画展示 駿河台キャンパス大学会館1階）

5 社会教育

内外の幅広い層に向けた公開講座等を実施し、「開かれた大学」としての社会的使命を果たします（詳細は本誌特集① センターの社会貢献活動をご覧ください）

6 大学史資料センター運営委員会・研究会等

センターで開催した各種会議・研究会等は以下の通りです。

① センター運営委員会

- | | | | |
|------|----------------|----|-----------------------|
| 第76回 | 2015年 4月22日（水） | 議題 | 2015年度センター事業について 他 |
| 第77回 | 2015年 5月27日（水） | 議題 | 2016年度学部間共通総合講座について 他 |
| 第78回 | 2015年 7月22日（水） | 議題 | 『明大の歴史』（仮）について 他 |
| 第79回 | 2015年 9月30日（水） | 議題 | 2016年度調査について 他 |
| 第80回 | 2015年11月25日（水） | 議題 | 2016年度学部間共通総合講座について 他 |
| 第81回 | 2016年 1月27日（水） | 議題 | 新規運営委員委嘱候補者の選定について 他 |
| 第82回 | 2016年 3月23日（水） | 議題 | 総合講座講師変更について 他 |
| 第83回 | 2016年 4月27日（水） | 議題 | 2016年度センター事業について 他 |
| 第84回 | 2016年 5月25日（水） | 議題 | 副所長・編集委員の交代について 他 |
| 第85回 | 2016年 7月27日（水） | 議題 | 2017年度学部間共通総合講座について 他 |
| 第86回 | 2016年 9月28日（水） | 議題 | 阿久悠記念館の運営について 他 |
| 第87回 | 2016年12月21日（水） | 議題 | 2017年度運営委員の推薦について 他 |
| 第88回 | 2017年 1月25日（水） | 議題 | 2017年度正副所長の推薦について 他 |
| 第89回 | 2017年 3月22日（水） | 議題 | 2017年度センター事業について 他 |

② 創立者研究会

（構成員 山泉進所長【代表】 村上一博委員 野尻泰弘研究調査員 村松玄太【事務局】 阿部裕樹【事務局】）

- 第7回 2015年3月17日（火）岸本澄子氏・幸雄氏インタビュー
 ○資料調査・講演会（鳥取市） 2015年9月11日（金）～13日（日）
 ○資料調査・講演会（全国校友鳥取大会）2016年11月12日（土）～14日（月）

③ 人権派弁護士研究会（第Ⅱ期）

（構成員 村上一博委員 【代表】山泉進所長 長沼秀明研究調査員 飯澤文夫研究調査員 中村正也研究調査員 阿部裕樹【事務局】）

- 第36回 2015年 4月 8日（水） 内容 シンポジウムについて 他
 第37回 2015年 4月15日（水） 内容 シンポジウムについて 他
 ○シンポジウム アジアの人権とコモンズー布施辰治甞れ！ 2015年6月27日（土）
 ○夏季資料調査（盛岡市） 8月3日（月）～4日（火）
 第38回 2015年12月 9日（水） 内容 『解放群書』刊行計画について 他
 第39回 2016年 1月27日（水） 内容 『解放群書』に関する打合せ 他
 第40回 2016年 3月23日（水） 内容 研究報告 山泉所長・飯澤研究調査員
 第41回 2016年 4月27日（水） 内容 研究報告 山泉所長
 第42回 2016年 5月11日（水） 内容 鶴澤総明墓参
 第43回 2016年 6月 1日（水） 内容 研究報告 飯澤研究調査員

第44回 2016年 7月 20日（水）内容 研究報告 山泉所長・中村研究調査員・阿部室員

第45回 2016年10月 5日（水）内容 『大学史紀要』第23号への執筆について

第46回 2016年11月16日（水）内容 研究報告 村上委員

④ アジア留学生研究会

（構成員 高田幸男委員【代表】 山泉進所長 村上一博委員 秋谷紀男委員 三田剛史委員 土屋光芳研究調査員 鳥居高研究調査員 李英美研究調査員 山下達也研究調査員 鈴木将久研究調査員 長沼秀明研究調査員 阿部裕樹【事務局】）

第38回 2015年 3月25日（水）内容 台湾調査報告 他

第39回 2015年 5月13日（水）内容 人文科学研究所総合研究の成果報告について 他

第40回 2015年 6月10日（水）内容 人文科学研究所総合研究の成果報告について 他

第41回 2015年 7月15日（水）内容 研究報告 蔡龍保氏（国立台湾大学） 他

第42回 2015年10月 7日（水）内容 科研費への応募について 他

第43回 2015年10月21日（水）内容 科研費への応募について 他

第44回 2015年 12月 2日（水）内容 2016年度大学院研究科間共通科目について 他

第45回 2016年 1月27日（水）内容 人文科学研究所総合研究の成果報告について 他

第46回 2016年 3月 2日（水）内容 研究報告 土屋研究調査員 他

第47回 2016年 4月20日（水）内容 鈴木研究調査員提出論稿 他

第48回 2016年 5月11日（水）内容 書評報告 三田委員 他

第49回 2016年 7月27日（水）内容 資料紹介 山下研究調査員 他

第50回 2016年 9月21日（水）内容 科研費への応募について 他

第51回 2016年10月 4日（火）内容 科研費への応募について 他

第52回 2016年10月12日（水）内容 科研費申請書類の作成について

第53回 2016年11月30日（水）内容 シンポジウム参加報告 高田副所長
2017年度大学院学際総合研究A「留学経験と近代東アジア「学知」圏の形成」シラバスについて 他

⑤ 財界人研究会

（構成員 秋谷紀男委員【代表】 村上一博運営委員 白戸伸一研究調査員 阿部裕樹【事務局】）

第4回 2015年10月21日（水）内容 研究報告 秋谷委員・江旭本氏

⑥ 日記研究会（昭和歌謡史研究会分科会）

（構成員 吉田悦志委員【代表】 富澤成實委員 井上一夫氏（研究協力者） 深田太郎氏（同） 三田完氏（同） 村松玄太【事務局】）

第 1回 2014年12月11日（木）内容 阿久悠日記の解説の方向性の読み込み 1981年日記の読み込み

○小林亜星氏聞取り 2015年1月14日（水）

第 2回 2015年 1月29日（木）内容 1982年日記の読み込み 他

第 3回 2015年 2月25日（水）内容 1983年日記の読み込み 他

第 4回 2015年 3月25日（水）内容 1984年日記の読み込み 他

○齋藤柳光氏聞取り 2015年3月26日（木）

第 5回 2015年 4月30日（木）内容 1981・1982年日記の読み込み 他

○堀威夫氏聞取り 2015年5月11日（月）

第 6回 2015年 5月28日（木）内容 1983・1984年日記の読み込み 他

第 7回 2015年 6月25日（木）内容 1985・1986年日記の読み込み 他

○関園子氏聞取り 2015年7月9日（木）

第 8回 2015年 7月21日（火）内容 1987・1988年日記の読み込み 他

第 9回 2015年 8月21日（金）内容 1989・1990年日記の読み込み 他

第10回 2015年 9月24日（木）内容 1991・1992年日記の読み込み 他

第11回 2015年10月22日（木）内容 1993・1994年日記の読み込み 他

第12回 2015年11月26日（木）内容 1995・1996年日記の読み込み 他

第13回 2015年12月17日（木）内容 1997・1998年日記の読み込み 他

第14回 2016年 1月27日（水）内容 1999・2000年日記の読み込み 他

第15回 2016年 2月25日（木）内容 2001・2002年日記の読み込み 他

- 第16回 2016年 3月23日（水）内容 2003・2004年日記の読み込み 他
 第17回 2016年 4月22日（水）内容 2005・2006年日記の読み込み 科研費の採択について 他
 第18回 2016年 6月 1日（水）内容 2007年日記の読み込み 他
 第19回 2016年 7月 7日（木）内容 今後の計画について 大学史紀要への寄稿について 他
 第20回 2016年 7月27日（木）内容 NHK「ニュースウオッチ9」・共同通信取材対応 他
 第21回 2017年 2月20日（月）内容 今後の計画について 他

計 報

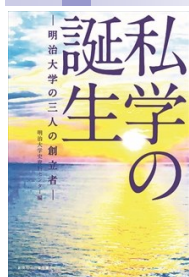
秋谷紀男センター運営委員（政治経済学部教授 59歳）が2017年1月31日逝去されました。秋谷委員は、1986年に『明治大学百年史』調査員となり、のち同書の後執筆協力者としてその編纂に携わりました。2003年4月以降は大学史資料センター運営委員として、尾佐竹猛研究会、三木武夫研究会、大学小史研究会、戦没学徒研究会、アジア留学生研究会等に加わり、2013年に発足した財界人研究会では、研究代表としてその運営に尽力されました。ここに謹んでお悔やみ申し上げます。

明治大学史資料センタースタッフ一覧（2017年3月1日現在）

- 所 長 山泉 進（法学部教授・図書館長）
 副 所 長 高田 幸男（文学部教授）
 運 営 委 員 村上 一博（法学部教授・博物館長）
 同 若林 幸男（商学部教授）
 同 三田 剛史（商学部専任講師）
 同 富澤 成實（政治経済学部教授）
 同 野尻 泰弘（文学部専任講師）
 同 松下 浩幸（農学部教授）
 同 吉田 悦志（国際日本学部教授・副学長 阿久悠記念館運営責任者）
 同 岩崎 宏政（社会連携事務長）
 （以上、センター規程第8条第1項第3号に基づく委員）
 同 高山 茂樹（総務部長）
 同 鈴木 優一（総務課長）
 （以上、センター規程第8条第1項第4・5号に基づく委員）

○事務局（総務部総務課〈大学史資料センター担当〉）

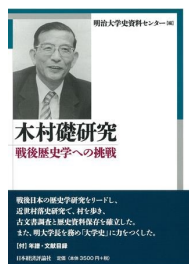
- 村松 玄太
 杉林真由美
 阿部 裕樹
 江原 千秋（嘱託）
 吉田晋一郎（嘱託）



私学の誕生 明治大学の三人の創立者 〈創英社／三省堂書店刊〉

明治大学史資料センター編 四六判並製 240頁 定価1700円+税(2015・3)

明治大学の創立者・岸本辰雄、宮城浩蔵、矢代操を紹介する初めての公式本。第1部では創立者たちの出身藩である岸本辰雄と鳥取藩、宮城浩蔵と天童藩、矢代操と鯖江藩との関わりを紹介する。第2部「明治大学の誕生」では、「貢進生」として上京した3人が明治法律学校を創立するに至るまでの道のりを紹介する。第3部では、「創立者たちの遺したもの」と題して、明治法律学校の創立以後の3人の経歴と業績、そしてその後の顕彰運動を取り上げる。



木村礎研究 戦後歴史学への挑戦 〈日本経済評論社刊〉

明治大学史資料センター編 A5判上製 256頁 定価3500円+税(2014・8)

木村礎は戦後日本の歴史学研究をリードし、近世村落史研究の画期を築いた。村を歩き、古文書調査と歴史資料保存の方法論を確立した。また、明治大学学長を務め「大学史」に力をつくした。その一端を明らかにする木村礎研究会の成果。付・年譜、文献目録。



布施辰治研究 〈日本経済評論社刊〉

明治大学史資料センター監修 山泉進・村上一博編著 A5判上製 328頁

定価4000円+税(2010・12)

日本のシンDLラーとも呼ばれた「人権派弁護士」布施の多面的な活動を史料とともに検証する。



三木武夫研究 〈日本経済評論社刊〉

明治大学史資料センター監修 小西徳應編著 A5判上製 400頁 定価5200円+税(2011・10)

国民を恐れ、政党政治の未来を信じた「議会の子」三木武夫元首相。その実像に迫る。



明治大学小史 人物編 〈学文社刊〉

明治大学史資料センター編 四六判並製 248頁 定価2300円+税(2011・10)

明治大学が輩出した人物を大学行政・アカデミズム・法曹・政治・財界・作家・芸能文化・スポーツの諸分野から119名を精選して紹介。

阿久悠・布施辰治 大学史紀要第21号 A5判並製 348頁 (2016・3)

2015年6月27日に開催されたシンポジウム「アジアの人権とコモンズー布施辰治！甦れ。」の記録と小林亜星・堀威夫・齋藤柳光・関園子各氏インタビューを掲載。

阿久悠研究 III 大学史紀要第22号 A5判並製 270頁 (2017・2)

阿久悠と美空ひばり、阿久悠『日記力』『日記』を書く生活のすすめ』の解析、阿久悠の韻律論、『書き下ろし歌謡曲』誕生秘話、深田太郎氏(阿久悠長男)×上村汀氏(上村一夫長女)対談、関係者インタビュー、直筆作品原稿の分析など。

人権派弁護士研究 III 山崎今朝弥研究 2 大学史紀要第23号 A5判並製 265頁 (2017・3)

奇才の人権派弁護士・山崎今朝弥が刊行した解放社版『幸徳伝次郎全集』の書誌的探求、明治法律学校卒業間もない山崎の活動、山崎が関わった上野動物園内売店の営業権事件、山崎の刊行した雑誌群、関東大震災後の山崎の動向など。

大学史活動 第37集 A5判並製 156頁 (2016・3)

大学アーカイヴズ担当者による最新成果報告。特集は「近代日本の幕開けと私立法律学校」。

ニュースレター明治大学史 No.13

<http://www.meiji.ac.jp/history/>

発行日 2017年3月30日

編集・発行 明治大学史資料センター 所長 山泉 進

所在地 101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1 電話 03-3296-4329・4085 FAX 03-3296-4086